

バスは何処へ？

043 立教新座中学校・高等学校鉄道研究会

「バスが出せない」

旅行の初日、バス会社から連絡があった。手配していた運転手が予定超過し、翌日の運行ができなくなったそうだ。どうしたものかと思ったが、その日はもうホテルで寝るしかなかった。

翌朝、ホテルの窓から外を見ると前日見た景色と異なる点があることに気づいた。モノレールしかないはずの紅の巨城のそばを、全く別の鉄道が走っていたのだ。これで今日の目的地に行くことができる。ふと列車の中から道路も見下ろすと、走っているバスの本数が以前来た時よりも少なくなっているように感じた。

家に帰った後にあの路線について調べてみても全く情報は出てこなかった。果たしてあの旅行は現実のものだったのだろうか。ただひとつわかるのは、バスの運転士が不足している中、それに代わる交通手段が必要になるのだろうということであった。